

令和2年度 研究内容一覧

【共通テーマ】

- ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ②ICT (MetaMoJi) を活用した授業の実践

委員	個人テーマ	研究内容
田中由美 (岐山)	インプットからアウトプットへのつながりを意識した活動を取り入れた授業	<ul style="list-style-type: none"> ●3年生の演習中心の授業の中でも、生徒がアウトプットできる活動を意識する。 <ul style="list-style-type: none"> ・読解問題でのペア活動 ・学習した内容を自身のことに絡めて英語で表現する
安藤万莉英 (大垣北)	読むことを通して、振り返りながら思考力を高める授業	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒がテキストの主題に主体的に迫り、読むことで自らの考えを深められるような授業づくりに取り組む。また、生徒が自分の学習状況や方法、思考と判断の道筋を振り返る手順を取り入れる。
市橋憲和 (多治見北)	発表、やり取りに向けた各活動目的の明確化とその授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ●インプット→インテイク→アウトプットの流れを各単元で意識し授業を組み立て、毎時間必ず音声活動(1時間目はpre-listening, 2時間目はpost-listening)から入り、授業の出口に、ペアの相手に本文の内容を伝えることをゴールとしリテリングを行う。 ●本文に関する発展的な問いを与えて、深い学びへとつながるようにする。
高田敏博 (中津川工業)	チャンクを意識した音読活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●チャンクを意識した音読を生徒にさせることに力を入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・スラッシュの場所を意識して、意味を考えながら読むことを軸として、多読、速読を行い、最終的にSight Translationができるようになることを目標として取り組む。 ●はじめに表現を落とし込む活動として、新出語句や表現の反復練習、教科書本文を読めるようにするための多読・速読などのIntake活動を行い、最後にSight Translationを行う流れである。 <p>【Sight Translationの方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1文を1枚のスライドで表示。さらにその1文をスラッシュごとに分け、改行する。日本語の右側に英語が表示されるようにする(アニメーション使用)。 2. スラッシュごとに発声練習(全体で)→1文まとめて発声練習。できたら次の文。次の文も同じように練習。2文目が終わったところで1文目に戻って、1文目→2文目と復習を入れる。どこまで進んでも必ず1文目に戻って行う。 3. 最後に、Phrase Readingシートを用いて、口頭でのペア活動を行う。

<p>林輝将 (飛驒高山)</p>	<p>主体的な学習姿勢の育成と、活動時間のさらなる捻出</p>	<p>●反転授業の実施により、教員の説明する時間が大半を占めるインプット活動を授業外に移動することによって大幅に削減し、アウトプット活動の時間を捻出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション英語では、『①新出単語の発音と意味確認』、『②重要表現の確認』、『③本文の構造把握』を動画で配信し、事前に予習させ、授業では上記の復習を簡潔に行った上で、英問英答や文章の精読、簡単な意見の交流を行う。 ・英語表現では、『①単元となる文法項目の概要説明』、『②副教材の問題演習及び解説』を動画で配信し、事前に予習させ、授業では予習で解いた問題を再度解き、補足説明を加えたり、派生的な内容を確認したりして、定着を図る。
<p>野添祐輔 (高山工業)</p>	<p>反復による基礎の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●授業で使うプリントに既習の単語や文法事項を確認するためのチェックリストを作成し、毎時間、ワークシートを用いて、個人やペアで学習事項を確認し、既習事項を定着させる。 ●学習内容が一区切りするごとに、チェックリストを使用して、本文の内容や文法などの確認も行う。